養鶏事業に参加する女性
写真提供：ピース ウィンズ・ジャパン

ピース ウィンズ・ジャパン
アフガニスタン駐在代表
パトリシア・ガルシア

アフガニスタン「北部サリプル州での活動報告」
—ピース ウィンズ・ジャパン

ピース ウィンズ・ジャパン（PWJ）は2001年からアフガニスタン北部のサリプル県で活動しています。サリプル県の人口は約47万人。山間にあるため、特に支援の届きにくい地域です。

サリプル県では長期にわたる干ばつのため、多くの国内避難民（IDPs）が発生していました。PWJはこうした人々に対して2001年冬に、テントや毛布、生活物資などを提供する緊急支援を開始しました。その後、2002年の春にはその大部分が元の村に帰還。人々の帰還にともなってPWJの活動も、村での生活改善を支援する復旧・復興支援へと移行していきました。

シーラム地域での道路建設

国内避難民キャンプで暮らしていた人々の主な帰還先の一つが、現在PWJがUNHCRの契約実施機関として活動しているシーラム地域です。この地域は、高原や丘、窪地に点在している約85の村々から形成されています。ここの大きな問題の一つは、整備された道路がないこと。主な交通手段はロバと馬です。利用できる道路と交通手段が限られていることで、多くが貧しい農家であるシーラム地域の人々は、帰還後も困難な状況に直面しています。

大都市から離れれば離れるほど物価が高くなるため、サリプル県中心部とシーラム地域とでは、後者の方が生活物資の入手にかかる負担が大きくなっています。一方で、大都市に出る手段をもたない農民たちは、収入源となる野菜や果物を、規模が小さく価格も安い村の市場やバザールで売らざるを得ない状況にあります。このように、高い値段で生活物資を購入し、安い値段で農作物を販売していることで、シーラム地域の農民たちの生活はますます困窮していきます。

このような状況を改善するため、PWJは2003年7月にバガウィ村とカダムジョイ村の間、約20キロに亘る道路の建設プロジェクトを開始しました。この道路が完成すると、シーラム地域の85の村々で暮らす人々と、サリプルの中心街がつながることになります。現在までに13キロの建設が終了し、2004年1月までに残りの道路も完成する予定です。

道路のうち建設が終了した区間では、すでに自動車が人や物資を積んで走っています。この地域では、難民キャンプや国内避難民キャンプから帰還した村人の数が多かったために多数の国際的なNGO（非政府組織）が支援にあたっていますが、PWJの建設した道路はこれらのNGOの活動地域へのアクセスを容易にするといった効果もあります。

また、このプロジェクトにともなう作業者の雇用によって、村人は収入を得ることもできています。このように、道路建設プロジェクトは、人々の生活を大幅に改善するものとなっています。

工事が進むサリプルの道路
写真提供：ピース ウィンズ・ジャパン

女性のための養鶏プロジェクト

もう一つ、PWJがUNHCRと契約を結んで行っている活動が、女性のための収入向上プロジェクトです。PWJは2003年7月、女性たちが共同で管理する最初の養鶏場をサリプル県に開設しました。このプロジェクトはPWJが2002年から行ってきた、未亡人や母子家庭などといった社会的に弱い立場にあるアフガン女性を対象とした養鶏トレーニングの経験を引き継ぐものです。

PWJの職員はまず、約3000羽のための鳥小屋を建設しました。その後、プロジェクトの一環として、訓練を受けた女性たちが養鶏場を管理し（給餌、健康管理、繁殖、鶏肉や卵の販売）、事業を進めています。ここで生産された鶏肉や卵は地域の住民に販売されるほか、市場でも販売されます。この施設は、サリプル県の女性たちに収入向上の機会を提供するだけでなく、地域社会の安定にも貢献しています。

このプロジェクトを始めて以来、地域社会からの反応はとても積極的なものとなっています。PWJの養鶏プロジェクトに参加し、現在もこの養鶏場を使用しているサリプルの女性たちのインタビューからも、このプロジェクトが非常に良い結果を生んでいることが分かります。多くの女性が、以前には持っていなかった技術を身につけたことをプロジェクトの成果として挙げました。また、収入を得られるようになったことで家計が安定し、家族のための食糧などを確保できるようになったことが嬉しいと答えた女性もいました。

PWJは、こうした声を励みに、これからも支援活動を続けていきます。

（2003年12月末 記）